

○参院選マニフェスト

生活者、働く者の立場で

国会が終わり、各党が7月21日の参議院選挙に向かって走り出す中、民主党のマニフェストが発表されました。「暮らしを守る力になる」と、海江田代表が直筆でしたためのスローガンで戦いは始まります。

株価の上昇に象徴されるような一時的な経済発展で誤魔化すのではなく、日本の中長期的な課題をぶれずに追求していくことが大事だと言っています。年金生活者の不安解消、子育てに対する制度の拡充と安定感の創出、中小零細企業の将来展望を明るくものとしていくことなど、生活に密着した具体的な政策を提起しています。また、日本の未来のために、子供たちを中心に、人への投資を広げます。人が強くしなやかに、すべての人に居場所と出番があり、共に生きることができる社会こそ、本当に強い国家であり、社会をしっかりと支える「分厚い中間層」を作っていくことが大切だと言っています。

明日の経済も大事だけど、二十年三十年先の日本がダイナミックに外に開いていく力を持ち続けるためにも、人への投資を、思い切った構造改革で実現しなければなりません。

○民主党、自民党の原点

先日、地元に戻る新幹線で、「民主党もうっかりしていると、以前の社会党のようになっていくのでは？」という問いかけを、中小企業の経営者だという方から頂き、一瞬、心がひるみました。正直、逆風には決して強くない民主党が再建に向かってしっかり意識しなければならないポイントだと言います。

政権は、たくさんの政党の中のいくつかが組んで連立政権として成立させる形であれば、どの党も専門店のように一つのことにこだわって個性を出しながら国民にアピールすることになります。一方で、国会を2大政党のどちらかが競い合って政権をとる形を目指すとなれば、与党、野党、どっちにしても、総合百貨店型の広範囲な政策課題を担う必要があります。

政権交代が可能となった時点で、民主党も総合百貨店になることを目指しました。

さらに、自民党や民主党が新しく出てきた維新やみんなの党と違うところは、支持母体に、組織団体の根っこがあるところだと思っています。自民党は業界団体に加え、公明党との連立による支持、民主党は労働組合の支持があります。こうした組織票の上に、それぞれの候補がどれだけ個人への票を上乗せできるかによって、選挙の勝敗が決まります。民主党が大いに反省しなければならない点の一つに、この個人票の掘り起こしが十分にできていないことがあります。戸別訪問やミニ懇談会などを通して、人間個人への信頼を勝ち取ることがどんな時代でも選挙の原点であり、それは、社会生活の原点でもあるのだと思います。

○議員立法、アルコール健康障害

四日市にある、かすみがうらクリニック副院長の精神科医師、猪野亜朗先生の強いリーダーシップで、断酒会の皆さんとともに、アルコール依存症への基本的な対策がまとめられました。お酒の飲みすぎは、肝臓や血圧傷害などの病気の原因だけでなく、家庭内暴力、躁鬱などの精神障害や飲酒運転の常習など、社会的な問題の根本原因の大きな要素になっていることを指摘しています。

こうした動きを受けて、桜井充参議院議員と自民党の中谷元衆議院議員などと一緒に、アルコール健康障害対策基本法案を作る作業をしています。桜井さんはお医者さん。中谷さんは、断酒会発祥の地、高知県出身です。私は、酒にめっぽう弱いだけに、飲める人がうらやましいのです。しかし、お酒を敵視するのではなく、社会全体で、適度にお酒を楽しむ方向に仕組みづくりを考えていこうという中身です。多くの専門家の参加と、厚生労働省だけにかぎらず、関係各省庁を巻き込んでいきたいと思っています。9月から始まる臨時国会で法案の成立を目指していきます。

中川正春